

1 イチョウ並木

植物



札幌駅前通に続く、公園のメイン入口に伸びるイチョウ並木。

1918(T7)年に行われた開道50年記念博覧会のあと、植栽されたものであるといわれる。地下鉄建設の際に一度植え替えられたが、復植されて美しい並木景観を作り出している。

2 木下彌八郎顕彰碑

彫刻・碑像・モニュメント



木下彌八郎は、公園内に彫像のある木下成太郎の父で、豊岡藩の家老であった。後に家老を辞し、勤王の志士と交わって倒幕に貢献したが、中央政治には関わらず、北海道に渡って開拓に従事している。漢文で書かれた碑文は、公爵西園寺公望の題額、時の総理大臣原敬の撰文からなる。

3 のびゆく子等

彫刻・碑像・モニュメント



新一年生のお母さんの集いを記念に建立されたもの。

作者の小野健壽氏は、羊ヶ丘小学校の教員をされた方で、「友愛の心で命の喜びを表現」したものである。1976(S51)年11月20日に設置されている。

4 札幌パークホテルの庭園

造園的資産



建設当初はホテル三愛、後に札幌パークホテルになる。この庭は、北大の明道教授を代表とするデザインチームによって計画され、藻岩山を借景に、菖蒲池の水が庭園に流れ落ちるかのよう配置されており、公園と一体感を醸しだしている。

5 ハウチワカエデ‘舞孔雀’

まい く じゃく

植物



かつて豊水通の向こう側にあった料亭「雅叙園」の玄関脇にあった名木。道路の拡幅に合わせて廃業したため、庭木を公園に寄贈した名残の木で、優美な姿の葉が特徴である。

庭木のうち、街路樹ますの位置にあったヨーロッパクロマツは現在も残されている。

6 木下成太郎像

きの した しげ た ろう ぞう

彫刻・碑像・モニュメント



木下成太郎は、但馬の国豊岡の出身で、父弥八郎と来道して開拓にあたり、のちに衆議院議員として国政でも活躍している。後の大東文化大学や武蔵野美術大学などを創設した教育者としても知られ、1941(S16)年に建てられた彫像は、朝倉文夫の作で、供出も免れて現在に至っている。

7 山内壮夫彫刻群

やま うち たけ お ちよう ぐん

彫刻・碑像・モニュメント



北海道大博覧会のあと、1959(S34)年から1965(S40)年にかけて、公園が整備されて百花園や噴水が設置された時に、北海道出身の山内壮夫による森の歌が噴水の中央に、百花園のパラ園内に、同じく山内作の笛(笛を吹く少女)、果(母と子の像)、小さな牧神、鶴の舞が設置されている。

8 北海道立文学館

建造物・施設



北海道出身の文学者や、北海道にゆかりの深い文学者に関する文学資料を、収集保存すると共に、文学資料の展示、文学散歩、文芸講座、講演会、刊行物の編集、刊行等、種々の事業を展開するために開設されており、1995(H7)年に北海道が設置したものである。

9 自由広場

建造物・施設



公園内に設置されている広場で、まさに自由な使い方ができるため、春の園芸市や札幌まつりの出し物、メーデーなど各種の集会、フリーマーケットなど、年間を通じて様々な催し物が行われている。

10 ケヤキ(公園一の大木)

植物



元の偕楽園の一部である伊藤邸周辺や、偕楽園にあった開拓記念碑を移設した大通公園西6丁目などにケヤキの大木が見られ、この木も伊藤組創設者の伊藤亀太郎氏が、彌彦神社創建に際して、郷里の新潟から持ち込んだ苗を植えたものであるという。

11 風景の夢

彫刻・碑像・モニュメント



国際的金属造形作家として知られる、小田 襄(おだ じょう)の作品で、ステンレスを使った作品が多い。設置は2000(H12)年で、当初は芝生内におかれていたが、のちに周りを休憩施設として整備し、その中におかれている。

12 彌彦(伊夜日子)神社

神社・仏閣



札幌は新潟の出身者が多く、新潟にある越後一宮の彌彦(伊夜日子-いやひこ)神社の分霊を得て、1912(M45)年1月に彌彦神社を創建した。彌彦神社では、天照大神の曾孫天之香具山命を祀っており、1970(S45)年には、太宰府天満宮からの御分霊を得て増祀している。

13 鴨々川

自然資源



豊平川の分流の一つであった鴨々川は、京の鴨川を意識したものだとか、数条あるので鴨々川とした説や、アイヌがサケを取るときに使う曲げわっぱであるという説などもあったが、最近アイヌ語の「土砂が上に被さって詰まったところ=カモカモ・カムカム」に由来する地名である、という説が発表されている。

14 札幌護国神社

神社・仏閣



屯田兵招魂碑が建つ札幌忠魂社は北の偕楽園にあったが、手狭になったため、1907(M40)年に中島に移る。昭和に入って現在地に拡張移設し、1939(S14)年に札幌護国神社と改称する。

境内には、偕楽園にあった屯田兵招魂碑を初め、各種の慰霊碑が集まっている彰徳苑がある。

15 行啓通

ぎょう けい どおり

歴史的資産



1911(M44)年に、皇太子(後の大正天皇)が公園内で児童の遊戯をご覧になり、その後現在の南14条通を西進して山鼻小公園にある開村記念碑や明治天皇が声をかけた「お声がかりの榎(かしわ)」を見学し、再びこの道を戻られている。これに合わせて道路を整備したため、「行啓道路」と呼ばれていたが、後に行啓通となった。

16 シロヤナギ(公園一の老木)

植物



中島公園の場所は、もともと豊平川の河川敷であり、ヤナギやハルニレを中心にした水辺を好む木が生えていたと考えられる。中でもシロヤナギは、護国神社にかけて大木があり、その中で園内一の太い木が、南14条橋のたもとに立っている。ゆったりと流れる鴨々川と共に、この辺りの原風景を偲ぶことができる。

17 白鶴橋

はく つる ばし

歴史的資産



1887(M20)年に、エドウィン・ダンによって競馬場が設置された時、鴨々川を渡る形で馬場が設置されたため、ここに橋が設けられている。1907(M40)年に競馬場が廃止されたが、大正天皇が皇太子時代の1911(M44)年に札幌に行幸された時に、この橋を渡って中島から山鼻に入られている。

18 不老の松の碑

歴史的資産



鴨々川の対岸のこの場所には、かつて料亭『鴨川』があり、皇紀二千六百年の1940(S15)年に碑が建てられている。1871(M4)年にこの松が植栽されたと碑文にあるが、当時札幌にはなかったヨーロッパクロマツであるため、真偽は不明である。

19 札幌コンサートホールKitara 建造物・施設



公園内の遊園地施設「子供の国」の跡地に、1997（H9）年北海道初の音楽専用ホールとして開館した施設である。

特に音響効果がすばらしいとの評価が高く、世界各国の有名演奏家が来演する、音楽の殿堂となっている。

20 そう きょう 相響 彫刻・碑像・モニュメント



美唄出身で、国際的に活躍している彫刻家安田侃（かん）の作品。イタリアのピエトラサンタから産出される白大理石から掘り出された彫刻で、1997（H9）年に、Kitaraの開設に合わせて設置されている。館内にあるものとセットになっており、三つで一つの作品である。

21 天文台（岡田山） 建造物・施設



Kitaraから豊平館、日本庭園の一带は、明治時代に岡田花園があり、園亭を構えて園遊会場としての機能を持っていた。庭園の築山の名残が、現在天文台のある小山で、岡田山の名で親しまれている。天文台は北海道大博覧会のあと、1958（S33）年に建設されている。

22 シダレウンリュウヤナギ（枝垂雲龍柳） 植物



ウンリュウヤナギは枝がくねくねと斜上して特異な樹形になり、切り枝としても利用される。本種は、中国原産のペキンヤナギの変種であるが、公園内にはさらにこれが枝垂れるヤナギがあり、仮にシダレウンリュウヤナギと名付けている。

23 ほう へい かん 豊平館 建造物・施設



1881（M14）年の天皇家行幸に合わせ、わが国初の洋造旅館（ホテル）として建てられた豊平館は、元大通西一丁目にあったが、テレビ塔の建設により、1958（S33）年に現在地に移築された。国指定の重要文化財に指定されている。

24 日本庭園 造園的資産



北海道に本格的な日本庭園をと、1961（S36）年から二年をかけて造成。日本庭園の基本的形式である築山林泉回遊式庭園で、道内各地の銘石や、京都から取り寄せた12基の石灯笼、アカマツやクロマツなどの庭木など、見どころが多く、八窓庵もここにおかれている。

25 シダレザクラ（枝垂桜） 植物



本来はエドヒガンの枝垂れるものを指すが、ほかの系統にも枝垂れ性のものがあり、それらの総称として使われている。三春の滝桜や京都の円山公園の一重白彼岸枝垂桜などの銘木が多く、この木はまだ小さいながら、開花を楽しみにたくさんの人が見学に訪れている。

26 はっ そう あん 八窓庵 建造物・施設



江戸初期の茶人小堀遠州が、江州小室郷の弧蓬庵に作った茶室「舎那院忘筌」を、1919（T8）年に札幌の実業家が移築。その後1971（S46）年に札幌市に寄贈され、現在地に移築されている。札幌に移築時に三分庵を付設し、水屋等を作って利便性を高めている。この建物も、国指定の重要文化財である。

27 しょう ぶ いけ げん え も ん ぼり あと ち 菖蒲池（元右衛門堀跡地） 自然資源



開拓初期には、豊平川上流から流送される木材の貯木場として利用され、その工事を請け負った鈴木元右衛門の名をとり、「元右衛門堀」と呼ばれた。当初は四角の二つの堀であったが、公園整備に合わせて池をつないだり園亭を設け、少しずつ形を変えながら現在の形になっている。

28 フジ

植物



フジの花は家紋にもよく使われるように、古くから工芸や文学にも登場し、なじみ深い花である。つる性のため、棚作りにして鑑賞するが、菖蒲池と日本庭園の間の道の上には、大規模なフジ棚が設けられており、長く垂れて咲くフジの花が見事である。

29 四翁表功碑

よん おう ひょう こう ひ

彫刻・碑像・モニュメント



札幌の町の建設初期に、各方面で特に尽力した四名（水原（すいばら）寅蔵、大岡助右衛門、石川正叟（しょうぞう）、対馬嘉三郎）の功績を讃え、開道五十年記念の大博覧会が開かれた1918（T7）年に建てられたものである。

30 こども人形劇場こぐま座

建造物・施設



大正時代から人形劇や童話会の伝統があったが、1953（S28）年から児童会館で人形劇や腹話術が始められ、日曜子供劇場に発展していった。1976（S51）年、専用の人形劇場を開設し、こぐま座と名付けられて現在に至っている。

31 中島児童会館

建造物・施設



戦後まもなく、公園内には進駐軍のカマボコ兵舎ができたが、その後移転したためその兵舎の払い下げを受け、1949（S24）年に中島児童会館を建設している。諸説はあるが、わが国で最も古くから活動している児童会館として、たくさんの子供たちがこの空間で育っていった。

32 森の歌

彫刻・碑像・モニュメント



山内壮夫の代表作の一つで、1959（S34）年に北海道大博覧会を記念して造られたものである。もともと中央広場の噴水の中にあり、当時は白亜の白セメント製の彫刻であった。公園再整備に合わせ、ブロンズ像に改鋳され、1997（H9）年に現在地に移設されたものである。

33 水天宮

神社・仏閣



1884（M17）年頃、旧久留米藩士水野源四郎が、故郷久留米の水天宮の御分霊を札幌に勧請したが、市内を転々とし、ようやく1888（M21）年に現在地に社殿を建立したものである。向かって右の祠が稲荷大明神、左が白峯大明神となっている。

ちよっと 昔の中島公園

公園が今の姿になる前まで、公園内には市民に愛され親しまれた様々なものがありました。

中島競馬場

1887（明治20）年中島遊園地の開設と共に、エドウィン・ダンの設計による本格的な競馬場が造られました。開拓のために馬産が盛んだったこともあり、1907（明治40）年に桑園の地に移転するまでの約20年間、隣接する山鼻屯田兵などによって、盛んに競馬が行われていました。白鶴橋前後の直線道路がその名残であるといわれます。



中島公園競馬場（札幌競馬沿革誌より）

中島市民プール



賑わう中島プール（札幌市公文書館所蔵）

豊平川での水泳ではよく事故が起きるため、1923（大正12）年に冬季の製氷場と兼用する形で、プールが設置されました。のちには公認プールとなって競技にも使われ、1996（平成8）年に廃止されるまで、子どもから大人まで、幅広い市民に親しまれました。

百花園

1958（昭和33）年の北海道大博覧会の跡地整備によって、百花園や記念広場が整備されました。姉妹都市であるポートランド市から贈られたバラや、その名の通りたくさんの花が咲き乱れる花園として親しまれ、北海道出身の山内壮夫の彫刻群が、彩りを添えていました。



中島公園 三十三選 外伝

三十三選以外にもひっそりと伝わるスポットや文化施設があります。



ボートハウス

中島公園でのボートの歴史は古く、明治30年頃には池の縁にあるお休み所によって、貸しボートが始まっており、百年以上もの歴史があります。水面からの眺めは、陸上からとはまた趣を異にしているため、今なお人気があります。



中島公園・ボート（札幌市公文書館所蔵）

NHK跡地

北海道で初めてのラジオ放送は、1928（昭和3）年に設置された中島演奏所から発信され、隣にあった中島球場からの野球中継や、様々なローカル放送がここから流れていきました。1956（昭和31）年にテレビ塔が完成し、大通に放送局が移転したので、ここに放送記念碑が建てられているのです。